

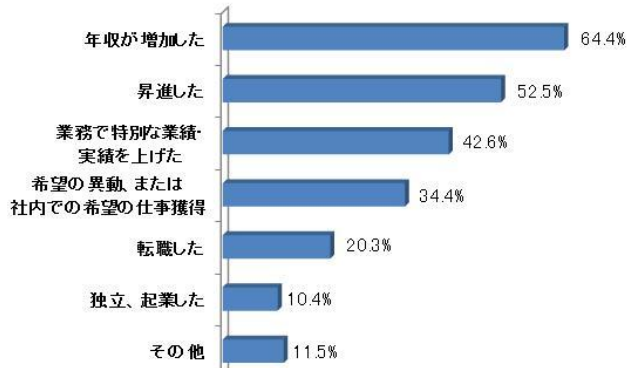
1. 卒業後のキャリアの変化は？

全体集計 (N=809)

● 処遇・キャリア上の変化



● 良い変化があった方の回答内訳 (複数回答可)



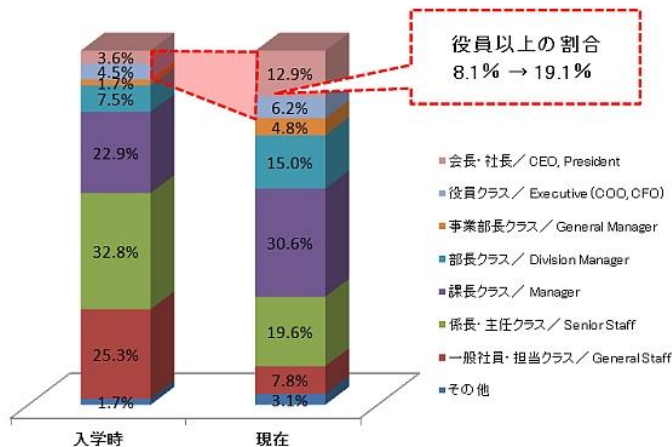
※パーセンテージは回答者全体を母数とした比率

前回の集計を2ポイント以上上回る結果となった。卒業生の92.3%が何らかのポジティブな変化を感じており、年収が上がった、昇進した、業績を上げた、異動など希望のキャリアを実現された人も多かった。

2. 年収、役職の変化は？

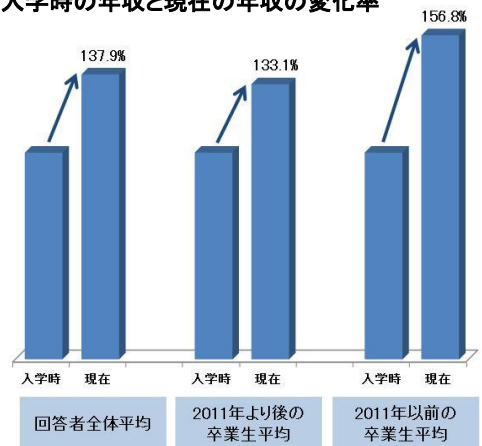
全体集計 (N=809)

● 入学時の役職と現在の役職の変化



役員以上の割合
8.1% → 19.1%

● 入学時の年収と現在の年収の変化率



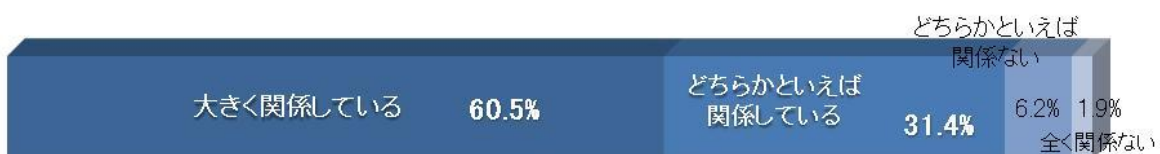
※有効回答から算出 / 入学時の年収を100%とする

入学時と比べ全体的に、より上位の役職クラスの比率が高くなっている。特に役員クラス以上の割合は8.1%から19.1%に上昇しており、所属企業において「創造と変革の志士」として活躍している様子が伺える。

年収は回答者平均で37.9%上昇しており、前回の数字より向上している。特に卒業から5年以上経過している2011年以前の卒業生については56.8%の上昇となり、こちらも前回の数字を上回る結果となった。

3. グロービスのMBAのキャリア変化への関与は？

全体集計 (N=809)



卒業生全体の9割以上の方がグロービスのMBAがキャリアの変化に貢献したと答える結果となった。ポジティブな変化を経験している人の大半が、グロービスで学んだことが大きく影響しているとの実感を持っていると言える。

具体的なキャリア変化は？ (一部抜粋)

- 卒業と同時に、当時希望していた海外赴任で台湾へ。現地法人が業績悪化を辿る中、コスト削減だけでなく、企業文化と戦略レベルからの変革を提言し、それを推進実行することができた。異文化の中での変革を立案・実行できたのは、まさにグロービスでの学びがあってこそだったと今改めて痛感している。(堀山良平さん 大阪校 2008年卒)
- 事業存続が危機的な状況の中、自らが変革のリーダーであると自覚し、覚悟をもって社外・社内を巻き込み新規事業の創出、具現化を推進することができた。最終的には事業の次なる未来の創造、仲間の雇用創出、世の中のモバイル業界の発展に寄与したと表彰を頂くことができた。(櫻井郁弘さん 大阪校 2015年卒)
- 提案力と企画力が高まり、より多くの「人」と「企業」を巻き込める力がつき、売上・利益を向上させることができています。更に、メガバンクからも評価され、これまでにない低金利で融資を受けられるようになった。(梅花堂紙業株式会社 代表取締役 佐野博政さん 名古屋校 2013年卒)
- 社内での提案や分析がグロービスで学んだことにより洗練されたため、評価が向上し北米に赴任することに。現地ではフレームワークや北米を題材としたケースでの学びが活き、米系他社や米国人のマネジメントで評価が上昇した結果、新規部署を創設。数億円の利益を生み出し、最年少で課長へ昇格できた。(Fさん 名古屋校 2010年卒)
- 以前は企画・制作部門のマネージャだったが、現在はマーケティング部門も兼任でマネジメントしており、売上責任を持つようになった。ポジションも、執行役員に昇格した。(Kさん 名古屋校 2015年卒)
- 卒業後に構想していた事業の企画を、独立を視野に入れたタイミングで、大手企業主催のアクセラレータープログラムに応募し、100件を越える応募の中から受賞5社に選ばれ、起業後に出資も得た。(株式会社みらいスクール 代表取締役校長 菅野高広さん 東京校 2013年卒)
- 商品開発職だった当時、社長に会社の変革テーマを提言し、翌年は社長直轄組織メンバーに抜擢された。2年プロジェクトに参加し、現場では部長職に抜擢された。(Tさん 東京校 2013年卒)
- 経営企画課長から、経営企画部長へ昇進。全社業績向上により、取締役常務へ。(東急リパブル株式会社 関西支社 取締役常務執行役員 関西支社長 太田陽一さん 東京校 2009年卒)
- 研究職からGEへ企画及びマーケティングで入社。現在は営業の本部長として勤務。マーケティング・戦略の実績が現在の職位に結びついていると考える。現職の前は、グローバルの領域リーダーを3年半経験した。(GEヘルスケア・ジャパン株式会社 本社営業本部 本部長 伊藤浩孝さん 東京校 2009年卒)
- 最初は研究所で一研究員として働いていたが、在学中に、卒業後異動を計画していた希望の部署(経営企画)に、当時最年少で異動した。(森脇章太さん 東京校 2013年卒)
- これまでの様々な変革活動や新組織の部門長としての実績が評価され、今後のグローバル事業展開において重要となる米国拠点の経営ポジションに抜擢された。(IHI INC. PPEP Vice President, Director of Operations 中村元哉さん 東京校 2011年卒)
- 社内で新規事業を企画実行し、そのプロジェクトをスピノフさせベンチャーとして独立させた。入学以前では考えられないことだが、スピノフのスキーム及び資金調達スキーム&交渉など、計画・実行できた。(Oさん 東京校 2010年卒)
- 当時、面識のなかったCOOに突然呼ばれ、製造子会社の出向、経営改革の指示を受けた。その後、親会社から派遣された新社長と二人三脚で改革を実施、成熟期にあっても3年間で売上成長7%、営業利益1.5倍を達成。(井上悟さん 東京校 2010年卒)
- 在学中は営業企画に係る一部門の部長であったが、卒業後、営業副本部長、後に社長補佐、と所掌する担当業務分野が全社的なものへと広がっていった。現在の会社は同族企業で私は事業承継予定者であるが、先代の現社長からも、卒業後に経営的な考え方の能力がアップしていると評され、係るポジションアップへと繋がっている。(Aさん 東京校 2014年卒)
- 事業企画へ移動し、破綻した子会社の再建支援に携わり、V字回復に貢献した。(古河電気工業株式会社 石川真樹さん 東京校 2011年卒)
- 2010年に独立起業し、その後6期連続黒字経営を続けることができています。(株式会社ソーラーパートナーズ 代表取締役 中嶋明洋さん 東京校 2012年卒)
- 社内の変革プロジェクトに抜擢された。内容は、社長直轄の「営業刷新プロジェクト」にて全国100近くの営業部・支社の中から、3つの支社を「モデル支社」に選抜し、その支社の支社長として、新しい支社運営モデルを横展開させたうえで、2年連続全国1位の業績を達成した。(アフラック 湘南支社 支社長 出野真さん 東京校 2012年卒)
- 幹部秘書から社長秘書に異動し、その後事業部でCapability関係のProject leadに抜擢され、現在は人事でタレント育成のプロジェクトを担当。(桃井温美さん 大阪校 2007年卒)
- 各事業部門から1名ずつ選出された全社戦略部門の新組織へ異動となり、社長直轄部門として社内の変革、企業価値向上を担当するようになった。(日本ハム株式会社 コーポレート本部 コーポレート・コミュニケーション推進室 谷川礼さん 東京校 2013年卒)
- 入学当初はSEだったが、MBAで学んでいることが評価され希望していた事業企画へ異動。在学中に出産したが、フルタイムワーカーとして、出産前と変わらず事業企画担当で継続して働くことができています。(Mさん 東京校 2015年卒)
- 卒業と同時に結婚出産し、半年間の産休を経て復職した。子育てがあるにも関わらず、リスクとされず、部で最も大きな変革プロジェクトのリーダーを任されている。(Sさん 東京校 2013年卒)
- 照明及び建築関連のデザイン分野の専門職としてエンジニアリング部門に在籍してきたが、その領域でのBtoBソリューション提案及び受注貢献の実績と共に、他領域を含めた柔軟な視点と経営観点が評価され、2020年の東京五輪大会を契機にした新規アライアンス事業創出をミッションとする本部戦略企画部への社内公募異動が適った。(パナソニック株式会社 東京オリンピック・パラリンピック推進本部 田中晴美さん 東京校 2014年卒)
- 入学後、グループ全体で取り組む女性活躍推進の部署に異動(本社へ出向)。在籍2年間で、女性経営層比率を5%から12%まで上げ、経営層候補者を多く擁立。また外部からは、活躍推進企業としての表彰、受賞を複数受けた。(リクルートライフスタイル 平沢春佳さん 東京校 2015年卒)
- ブランディング(+マーケティング)部門のアウトソーシング、というビジネスモデルを確立。内部に機能や人材が不足しがちな中小企業を中心に、実績づくり(業界最下位から3年でトップシェアを取るなど)と人材育成に携わっている。(Kさん 大阪校 2010年卒)

グロービスで学んだ内容を実務で活かし成果を上げることで周囲に評価され、抜擢されての昇進が目立った。また、これまでの調査と同様に、転職、独立・起業に加え、希望のキャリアを実現するための異動事例が多数寄せられた。

グロービスのMBAの何が役立ったのか？（一部抜粋）

- 授業を通じ、視点が経営目線となり大企業である自社の各部門の考え方を理解できるようになった。また特に米系他社のマネジメントスタイルへの理解が深まったため、他社や他部門との交渉が非常にスムーズになった。(Fさん 名古屋校 2010年卒)
- 「志」とは年輪のように、思考と行動の積み重ねにより太くなる。グロービス在学中にその芯を作り、今でも太く続けていることで、「何のために働くのか」が、よりブレない軸になっている。(Denso International Asia CO., LTD. Regional Production Innovation Planning Dept. General Manager 原雄介さん 名古屋校 2013年卒)
- 自分自身が会社にどう貢献するかか考えていなかったが、どうやって社会に貢献するかを考えるようになった。同時に自分の成長ばかりを考えていたが、組織全体の成長を強く意識するようになった。(丸尾勝己さん 名古屋校 2012年卒)
- 経験と勤頼みから、ヒト・モノ・カネのフレームワークを活用するスタイルに変わった結果、戦略立案が素早く行え、成功確率と説得力向上に繋がっている。(株式会社ユー・エス・ジェイ マーケティング本部 次長 寺井太郎 大阪校 2010年卒)
- どの科目ということはない。逆にいえば全て。まだまだ勉強不足とはいえ、一通りの経営知識を学び、まったく知識が足りない、完全に視点が抜けていることはないという自負心がビジネスを進める上での自信につながっている。(株式会社ケン・コーポレーション 総務部 部長 角掛渉さん 東京校 2014年卒)
- 深く考え抜き、何のためにどのような結果を出していくべきかを考える姿勢が役に立っている。今までは漫然と目の前のことをやるだけだったが、目的あるべき姿、成すべきことをしっかりと考えることにより、業務遂行がスムーズになっただけでなく、上長や部下などの他者へもわかりやすく説明することができるようになった。(JTBコーポレートセールス 中嶋博茂さん 東京校 2014年卒)
- 特定の科目が際立って大きく役立った、というのではなく、全ての科目が成長に大きく絡み合っていると思っている。また、予習復習・クラス・仲間や教員の方々との懇親、SNS等でのやり取りなどを通して、私自身がどのようにこれから生きていけばよいのか、常に考え続けたことに大きな意味があったと思っている。その結果として仕事に取り組む姿勢が変わり、行動・結果が変わったために、周りから新たな機会をもらえたのではないかと考えている。(AIGビジネス・パートナーズ株式会社 グローバル・リスクソリューションズ部 相馬英智さん 東京校 2015年卒)
- 『ベンチャー・マネジメント』の受講が起業するきっかけとなった。受講時に在籍していたベンチャー企業は、社員8人で共同生活しているところから始まり、マザーズ上場を経験していた。『ベンチャー・マネジメント』のクラスでは、自身がこのベンチャー企業で経験したことを非常によく整理することができたと同時にベンチャー企業を立ち上げるワクワク感を思い出させてくれた。そこで、受講後すぐの2009年12月にテストマーケティングを開始し、2010年4月に実際に起業した。このクラスを受講していなければ、今の状況はなかったと思う。(株式会社ソーラーパートナーズ 代表取締役 中嶋明洋さん 東京校 2012年卒)
- 一事業部門だけに特化しミクロ的に判断していた自分から、経営者視点で体系的に物事を判断するようになった。(駒沢真さん 東京校 2010年卒)
- 経営に係る様々な事象を、客観的かつ論理的に捉え、理解する力が身に付いたと考えています。その上で、自身の考えを、同様に客観的・論理的に、そして時に情熱的に表現する力も入学前に比べて向上し、コミュニケーションスキルも高まったと感じています。(Aさん 東京校 2014年卒)
- どの科目がというよりは、学んだすべての科目が(また学ぶために得た知見が)、製品開発や経営判断をする上で役立っていると思います。社会人経験を積んだ上で改めて学ぶ機会を得たことで、自分のロジックや価値観を再確認すると共に、自分の考え方の方向性(結果的には自分の進む方向性)を固め直すことができました。科目については、あえて言えば開発職中心だった自分にとって、『マーケティング』や『顧客インサイトとブランディング』、『クリエイティブと組織マネジメント』といった、テクノロジーと心理学の要素を併せ持った科目はとて刺激的でした。(レイ・フロンティア株式会社 取締役 澤田典宏さん 東京校 2014年卒)
- 異なる業界、幅広い世代の仲間から多くの刺激を受けた。社内のネットワークだけだと視野が狭くなってしまいが、アクションの幅が広がった。教員の方には、未だにご指導いただいている方もいる。卒業生ネットワークの維持・発展に取り組むことで、卒業後も様々な年代とのネットワークが広がっている。(日立製作所 官公アプリケーション第4部 主任技師 山下泰史さん 東京校 2010年卒)
- 様々なバックグラウンドをもつ学生それぞれのチャレンジスピリットに刺激を受け、自身の行動の活力となった。(並木太一郎さん 東京校 2011年卒)
- とともに自社の変革と、自社の社会的価値をどのように高めるかについて熱く語り、クールに分析できる仲間ができ、互いに高めあえたことが、卒業後も心の大きな支えとなっています。(株式会社東邦銀行 総合企画部企画課 参事役 柴田信洋さん 東京校 2015年卒)
- 漠然としていた自身の「志」を言語化し、それを有言実行するスケジュールを設けることで、実行スピードと実現するための覚悟が醸成された。(株式会社ポジティブドリームパーソンズ 代表取締役社長 杉元崇将さん 東京校 2012年卒)
- 「志」は入学前からベースは変わっていないが、経営的視点がより強くなったことで、実現することを強く意識したものに昇華した。それにより、自身の発言の説得力が増したことが、好影響したように思われる。(エイビーピー・ジャパン株式会社 コーポレートコミュニケーション本部 本部長 大西健太郎さん 東京校 2015年卒)
- 「プロの経営者となり、イキイキと働く人材を育て、苦しむ日本企業を救う」という「志」を持っていたので、クライシスの極限状態の中においても、「志を実現するための試練を与えてもらった」と前向きにとらえ、折れることなく進むことができた。(日本マクドナルド株式会社 ナショナルマーケティング部 部長 唐澤俊輔さん 東京校 2015年卒)
- 心底本音で語り合える学友に出逢えたこと、卒業後も親身になって相談に乗っていただける教員陣に出会えたこと。(株式会社シーズメッシュ 代表取締役 本間周二さん 東京校 2014年卒)
- 同じ視座で会話ができる仲間が多い。また、お願いをしても助けてくれることが多いため、急ぎの重要な案件で困ったときは色々と相談できる。新しい事業を考える際には、その業界に精通している仲間と会話をするだけで、その領域のあたりをつけられることは、私の貴重な財産となっている。(アマゾンウェブサービス株式会社 プロフェッショナルサービス本部 本部長 各務茂雄さん 東京校 2012年卒)
- 具体的にこの科目がというよりも、履修科目全体を通して論理思考力や他者へ伝える力をスパイラルアップしながら学ぶことで、携わる業務・案件に対して「掛け合わせ」の判断→最適解とアクションプランを導き出そうとする反射神経が備わっていった。自身のこれまでの専門領域とも掛け合わせることで、幅を上げつつ独自の強みを深めることにもつながっていると感じている。(パナソニック株式会社 東京オリンピック・パラリンピック推進本部 田中晴美さん 東京校 2014年卒)
- 体系的に経営を学ぶということで、組織における自分の視座が高くなったことや、論理的な説明ができるようになったことで、自分の意見を自信を持って発言できるようになった。(菊池直子さん 東京校 2015年卒)
- 規模の大小に関係なく、マネジメントの一員として組織を磐石にし、事業を成長させる絵を描くこと、実行に移すこと、そのプロセスから学ぶことを体感することができた。(有限責任監査法人トーマツ 朝岡真央さん 東京校 2015年卒)

4. 卒業生の生の声から見る具体的な変化は？

全体集計(N=809)

- 同じ立場(事業承継者)の仲間。先に承継している経営者の先輩からの教えは未熟な自分に大変役に立ち、力強かった。地元や商工会議所で知り合う人ではなく、グロービスという環境で知り合えた経営者だからこその言葉がありがたかった。(株式会社丸山組 代表取締役社長 丸山祥子さん 名古屋校 2013年卒)
- 現在の仕事では役員や部長クラスの人との仕事が多いが、年齢に関係なく共通のテーマで議論した経験が役職を超えた仕事に結びついている。(江崎グリコ株式会社 マーケティング企画室 曾谷有希さん 東京校 2014年卒)
- 在校生との交流の中で新しい気づきを得る機会が多くあった。また、苦悩や行き詰まった時に同じ悩みを抱える仲間と出会えたことで前に進むことができた。(松永絵美さん 東京校 2015年卒)
- (志の醸成をすることで)自分が何をやりたいのか、自分の言葉で語れるようになった。自分の中で大切にしていることが明確になることで、自分のことを知ることができ、生きる喜びや人生の豊かさを感じれるようになった。(小山真友美さん 東京校 2013年卒)
- (志の醸成をすることで)なぜこれをするのか、と思うときに立ち帰れる場所があるのは、困難な仕事をやり抜く際の力となった。(スターツシンガポール 轟由佳利さん 東京校 2013年卒)

「能力開発」「人的ネットワークの構築」「志の醸成」というグロービスの教育理念が色濃く反映されたコメントが数多く集まった。それぞれの要素が、確実にキャリアや仕事にポジティブな影響を与えていることが伺える。

あなたにとってのグロービスのMBAの価値は何か？(一部抜粋)

- ビジネススクールでありながら、松下村塾のようでもあり、ビジネスパーソンとしての生き方を見つめ直す場でした。生まれてから卒業するまでの人生の棚卸ができ、習得したスキルと知識、人脈を生かしつつ残りの人生をどう過ごすべきかを定めるトレーニングでした。(ザンビア中小企業協会 Senior Business Management Advisor 竹内幹也さん 大阪校 2009年卒)
- 単なる経営学の勉強だけではなく、哲学や生き方を真剣に考え、そして自分でその答えを出していくことのきっかけとなった。(堀越裕文さん 大阪校 2009年卒)
- 今の自分の「価値」を生み出している原点。(梅花堂紙業株式会社 代表取締役 佐野博政さん 名古屋校 2013年卒)
- 人生の転機。大海原を航海している巨大な帆船が、舵を切り、帆の向きをぐぐ一つと変えたような感じである。自分の人生の選択の中で、もっとも良かったと思う上位3つの中に入る決断だった。入学試験を受ける決心をした5年前の自分を褒めたい。(株式会社ケン・コーポレーション 総務部 部長 角掛渉さん 東京校 2014年卒)
- 自分の現在地とゴールを見極める地図作り。(味の素株式会社 加工用調味料部 課長 松井大さん 東京校 2013年卒)
- 生き方をスイッチする自分変革の場。(株式会社シーズメッシュ 代表取締役 本間周二さん 東京校 2014年卒)
- 「努力」という言葉を、自分のものにできた場所。その価値を身体で覚えた日々。総じて、人生の新しい出発点でした。(株式会社シンクロン 営業部 営業2G 部長 大前吉正さん 東京校 2014年卒)
- スキルの棚卸の場。人的ネットワークを広げ、自分の可能性を広げる場。(ヨーロッパ・ソーラー・イノベーション株式会社 取締役 営業本部長 関口剛さん 東京校 2012年卒)
- 確固たる「自信」を手に入れた場所。他人と比べず、「自分を信じる」ことができるようになったという意味で「自信」を得た場所。(日本マクドナルド株式会社 ナショナルマーケティング部 部長 唐澤俊輔さん 東京校 2015年卒)
- 人生の転機。自分よりも優秀なたくさんの方と出会えた場所。(アボットジャパン株式会社 栄養剤製品事業部 コマーシャルエクセレンス部 部長 山田泰輔さん 東京校 2007年卒)
- 自己を見直す機会提供の場。自己の生産性を向上させる場でした。(駒沢真さん 東京校 2010年卒)
- 生涯の友、尊敬する師に出会えた貴重な場。(古河電気工業株式会社 石川真樹さん 東京校 2011年卒)
- 一歩踏み出す勇気を得た場所。世界の広がりや自分の可能性の大きさを知れた時間。(江崎グリコ株式会社 マーケティング企画室 曾谷有希さん 東京校 2014年卒)
- 自分の人生を主体的に生きる心構えと、主体的に生き抜くための武器を獲得し、人生が変わった。(矢野智美さん 東京校 2015年卒)
- 人生に意味を教えてくれた場所。復活の場所。(岩出朋子さん 東京校 2014年卒)
- 自分と向き合い、自分の可能性を大幅に広げることのできた時間と場所。(株式会社丸山組 代表取締役社長 丸山祥子さん 名古屋校 2013年卒)
- 非常に密度が濃い毎日を過ごし、自分自身が急成長できる場だった。(フェリングファーマ株式会社 ファーマコビジランス部 部長 宇野弘絵さん 東京校 2015年卒)
- 人生を大きく変える場であり、これまでにない多くの学びを得られる場であった。(株式会社ワコール ワコールブランド事業本部 事業管理部 事業管理課 課長 藤井記代子さん 大阪校 2010年卒)
- ビジネスパーソンとして、人として社会に貢献するための基礎体力を培う場所。(有限責任監査法人トーマツ 朝岡真央さん 東京校 2015年卒)

経営知識の修得やビジネススキルの向上だけでなく、グロービスの特徴である「人間力を磨く」「信念をもったリーダーとなる」「社会に貢献する」「自らの可能性を信じる」といったビジネスリーダーとして生きる上で必要なマインド、姿勢、自己理解、視座の高まりなど、内面の成長に言及した内容が多かった。

20代集計結果

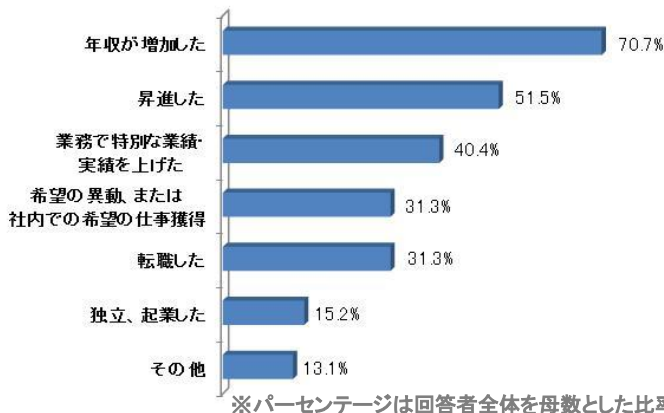
1. 卒業後のキャリアの変化は？

20代集計 (N=99)

● 処遇・キャリア上の変化



● 良い変化があった方の回答内訳 (複数回答可)

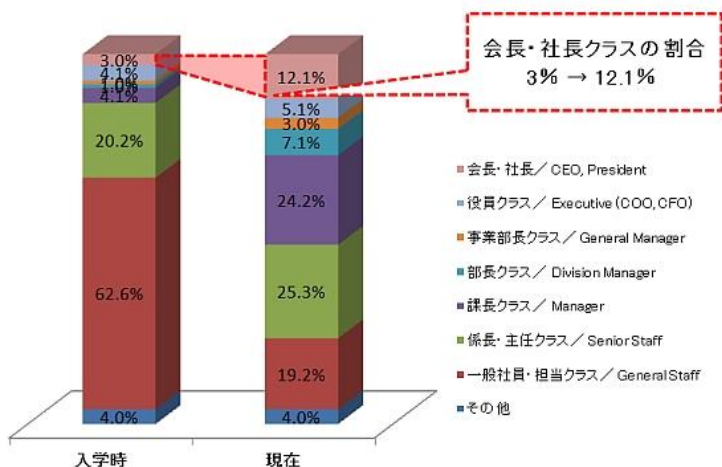


前回の集計を3.5ポイント上回り、卒業生の98%がポジティブな変化を得ている。また、20代は全体集計を上回った。20代で経営を体系的に学ぶことは学びを仕事に活かす機会に恵まれる可能性が高く、成果に繋げやすいことが伺える結果となった。

2. 年収、役職の変化は？

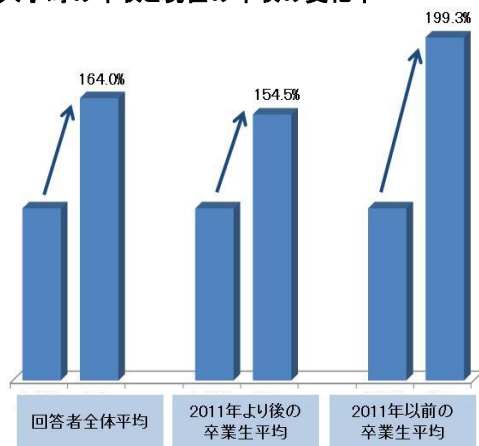
20代集計 (N=99)

● 入学時の役職と現在の役職の変化



入学時と比べ全体的に上位の役職の比率が高くなっている。特に一般社員クラスが大幅に減少し、課長クラスが大きく増加した。また、会長・社長クラスの割合は3%から12.1%に大きく上昇。20代においてもビジネスリーダーとして、活躍している様子が伺える。

● 入学時の年収と現在の年収の変化率

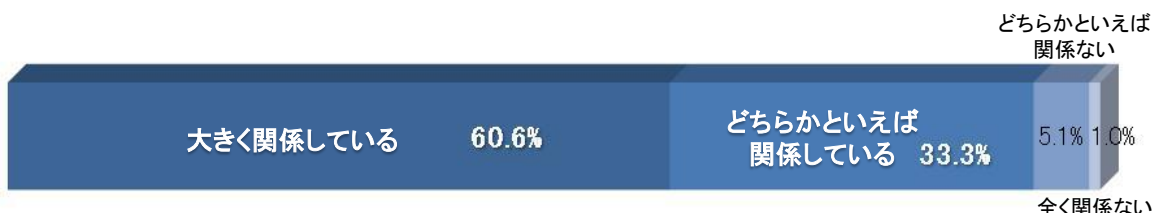


※有効回答から算出 / 入学時の年収を100%とする

入学時点で20代だった人の年収は、回答者平均で64%上昇。この項目についても全体平均を大きく上回った。また、2011年以前に20代で入学された方は、入学時点から2倍に伸びており、若くして経営を学ぶことで大きなリターンを得ることができることを証明する結果となった。

3. グロービスのMBAのキャリア変化への関与は？

20代集計 (N=99)



上述の通り、キャリア上のポジティブな変化が多く見られたが、その変化はグロービスのMBAで学んだことが関係していると答えた人の割合は高く、「大きく関係している」「どちらかといえば関係している」の合計は、93.9%となった。

具体的なキャリア変化は？（一部抜粋）

- 自らのビジョンに基づき新たな取り組みとして、障がい者のスポーツ(ブラインドサッカー)の観戦環境整備が健常者スポーツの環境整備にも繋がる成功事例を作り出し、大きく社会の評価を得た。(日本ブラインドサッカー協会 山本康太さん 東京校 2015年卒)
- 営業に従事し、売上改善を評価され、プロダクトマーケティングの部署へ異動。その後、マーケティングのスキルが評価され、社内の期待度の高いブレロUNCHプロジェクトに抜擢。加えて、業務外で全部署対象の交流会を創設。2015年に社長賞受賞。(シオノギ製薬 岩松慎一郎さん 大阪校 2011年卒)
- サイバーエージェントへ転職後、Makuakeという新事業立ち上げに取締役として携わり、事業開始2年半経過後、業界NO.1のサービスに。2016年元旦日本経済新聞1面にも大きく掲載された。(株式会社サイバーエージェント・クラウドファンディング 取締役 木内文昭さん 東京校 2011年卒)
- 最初は営業所の所長クラスで部下4人くらいだったが、その後本社常務取締役、子会社社長に就任した。現在は起業している。(株式会社PASIO 代表取締役社長 岡崎富夢さん 東京校 2007年卒)
- 現在の会社のコンサルティング部門に転職後、プロジェクトでのパフォーマンスを評価されて早期にマネジャーに昇格。(Uさん 東京校 2012年卒)

全体の集計と同様に、20代の集計でもグロービスで学んだ内容を実務で活かし成果を上げることで周囲の期待に応え、抜擢されての昇進に関してのコメントが多く寄せられた。

グロービスのMBAの何が役立ったのか？（一部抜粋）

- 「企業の課題が何なのか、それを解決するために何をしなければならないのか」をマクロ・ミクロな視点から捉え、議論した経験が、コンサルティングへの興味につながった。また、「人生で何を成し遂げるのか」という問いかけが、コンサルティングで躓いてもへこたれない気持ちを持てる原動力となっていると感じる。(藤本将司さん 名古屋校 2014年卒)
- 全ての科目が万遍なく役立っている。「マーケティング・ファイナンス・アカウントティング・経営戦略・人事組織」それぞれをバラバラに思考するのではなく「統合していく」という思考を身につけることができた。(Sさん 東京校 2015年卒)
- 企業経営に関するフレームワークを頭に叩き込んだことで、提案の質が向上した。加えて、経営陣・財務・人事等の他部門に積極的に関わることで、任される仕事の領域が営業という枠だけにとどまらず幅広い業務に携わることができている。(株式会社マーケット 営業本部 シニアアカウントエグゼクティブ 稲垣亮太さん 東京校 2014年卒)
- 会社にいるだけでは知り合う機会のない多様な業種・職種・立場の方々との交流は、自分の視野を広げ、多様なクライアント企業に対するコンサルティングを提供する上での基礎になっている。(Uさん 東京校 2012年卒)
- スタートアップコミュニティに先に入っている起業家やベンチャーキャピタルで働いている人から、Financeまでの道のりを教えて頂いたのはとても大きい。(株式会社Beer and Tech 代表取締役社長 森田憲久さん 東京校 2014年卒)
- 20代というキャリアの方向性がまだ十分定まっていないう中でのインプットと、その渦中での転職、マネジメントポジションの変更(事業責任者を経験)、社内ベンチャーの立ち上げによって徐々に自分の志、やるべきことが定まってきたように感じます。正直、在学中の志の発表はまだふわっとしていた部分が否めませんでしたが、今は自分が意味があると思うことを仕事にし、それが目の前の人と社会の役に立っていると自信を持って心から言えるようになりました。またグロービスという共通のプロトコルを持つ仲間と、定期的にかかる仕事上の課題に対して向き合い葛藤する中で、卒業時よりも確実に成長していると感じます。(株式会社サイバーエージェント・クラウドファンディング 取締役 木内文昭さん 東京校 2011年卒)
- 学長や教員の方々の経験を身近に見聞できて、自分も挑戦してみようと思えたことはとても大きい。(株式会社PASIO 代表取締役社長 岡崎富夢さん 東京校 2007年卒)

20代のキャリア構築においても、「能力開発」「人的ネットワークの構築」「志の醸成」というグロービスの教育理念がポジティブな影響を与えている様子が伺えるコメントが多数寄せられた。

あなたにとってのグロービスのMBAの価値は何か？（一部抜粋）

- 世の中やビジネスの「原理原則」を知ることができた場。グロービスでの学びがなければ、今ある全ての判断基準はなかったと思う。心から感謝しています。(太平商事株式会社 専務取締役 堀口弘人さん 東京校 2014年卒)
- 「志」と向き合うために必要な期間だったと思います。大学院に進学していなければ一歩踏み出していなかったかもしれません。(株式会社Beer and Tech 代表取締役社長 森田憲久さん 東京校 2014年卒)
- これからの人生で様々なモノを乗せていく「土台の範囲を広げることができた」と思います。大きな土台にはたくさん乗せることができます。20代の内にその土台を広げることができたことは貴重な経験でした。「学び」と「人的資源」の両方から広げることができたと思います。(Sさん 東京校 2015年卒)
- これからの人生の飛躍に必要な大きな基礎・基盤となるインプットのシャワーを浴びた時間・場。(Uさん 東京校 2012年卒)
- 「ビジネス基礎力の向上と、自分の中でのひとつのスタンダードができた」ことに価値があったと思います。(株式会社サイバーエージェント・クラウドファンディング 取締役 木内文昭さん 東京校 2011年卒)

自らの考え方や価値観を定める場所、飛躍的な成長への土台作りとなる場など、内省し自己認識を深め成長するためのマインドを醸成する場として、グロービスを位置づけていることが伺える。

<調査概要>

- 調査実施日(回答可能期間):2016年1月15日(金)~2016年2月14日(日)
- 対象者:グロービスオリジナルMBAプログラム(グロービス経営大学院の前身プログラム)、
およびグロービス経営大学院を2015年3月までに卒業した方全員
- 調査方法:インターネットによるアンケート形式
- 配信数と回答率:配信数(対象者数)1679、回答809(回答率48%)
- 集計N数 全体集計N=809/20代集計N=99